
千葉県生涯大学校マスタープラン

(平成28年度一部改訂・延長版)

千葉県健康福祉部

高齢者福祉課

平成29年1月

■ 目 次

I.	マスタープランの一部改訂・延長	1
1.	今回のマスタープランの一部改訂・延長の趣旨	1
2.	マスタープランの性格と位置付け	1
3.	今回のマスタープランの運用	2
II.	生涯大学校のあり方	3
1.	生涯大学校の存在意義と果たすべき役割	3
(1)	“生きがい・健康・仲間づくり”を支援	3
(2)	地域活動の担い手の育成	3
(3)	市町村等と連携・役割分担した学習・活動の場の創出	5
2.	地域における支援の対象となる高齢者	6
(1)	地域活動に興味のある高齢者	6
(2)	地域活動に意欲的な高齢者	6
(3)	仲間づくりをきっかけに地域活動を行う高齢者	7
3.	学習テーマの3本柱	8
(1)	地域活動に役立つ知識と技能の習得	8
(2)	地域活動を実践的に学ぶ体験学習	8
(3)	仲間とともに活動するノウハウの習得	9
4.	学部・学科等の一部見直し	10
(1)	学部名の改称と地域活動専攻科の東葛飾学園への新設	10
(2)	定員の一部見直しと授業料について	14
(3)	入学年齢について	15
5.	大学校の運営体制の強化	16
(1)	卒業生の組織化とコーディネーターの配置	16
(2)	市町村等との連携強化	17
(3)	大学等教育機関との連携	18
(4)	資格取得の支援	19
(5)	地域との交流の促進	21
(6)	その他運営体制の強化	22
6.	次期マスタープランの策定に向けた検証・検討	24
	参考:各学部の学習内容(案)	25
	参考:千葉県生涯大学校イメージ図	26
	資料	27

I. マスタープランの一部改訂・延長

1. 今回のマスタープランの一部改訂・延長の趣旨

千葉県生涯大学校は、昭和50年の開校以来、高齢者等の生きがいづくり、仲間づくりの場としての役割を担っており、これまでに4万人を超える卒業生を輩出してきました。その後、高齢化の急速な進展を受け、平成24年3月に「千葉県生涯大学校マスタープラン」（平成24年度～28年度）を策定し、高齢者が地域活動の担い手として活躍できるよう、修業年限や学科等の見直しを図るとともに、地域活動につながる学習内容としたところです。

最新のアンケートでは、卒業1年経過後の卒業生の地域活動実施状況が7割を超えるなど、着実に改革の効果が表れてきました。

一方で、更に高齢化が進み、本県では平成37年には『約3人に1人』が高齢者となることを見込まれており、高齢者が自らの健康を維持するとともに、地域で助け合うことが大変重要とされています。

また、介護保険制度の見直しにより、元気な高齢者が支援の必要な高齢者を支えていくことが求められており、同時に社会的役割を持つことで、高齢者自らの生きがいや介護予防につなげる効果も期待されています。

さらに、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」では、本県でも一部の競技が開催されます。そのため、観光客に県の魅力を伝える役割を担うボランティア人材の確保が求められています。

このような中、本「千葉県生涯大学校マスタープラン（平成28年度一部改訂・延長版）」では、運営上の課題の一部を見直すとともに、生涯大学校の果たすべき役割や運営内容などについて、改革の方向性を明らかにすることで、生涯大学校が県内の高齢者にとってさらに有意義な学びと実践の場になるとともに、地域活動に参加することによる生きがいの高揚につながることを目指しています。

2. マスタープランの性格と位置付け

千葉県生涯大学校マスタープランは、生涯大学校の目指すべき姿、現状と課題、カリキュラム、連携方法など、今後の運営に当たって必要とされる内容となっています。

生涯大学校は条例で設置が定められた施設ですが、その運営に関しては、規則を除き、マスタープランを最上位計画として位置付けるものです。

3. 今回のマスタープランの運用

今回の千葉県生涯大学校マスタープラン（平成28年度一部改訂・延長版）は、現マスタープランを一部改訂し、計画期間を平成30年度まで2年間の延長をするものです。

したがって、一部改訂・延長後のマスタープランに基づく学校運営は、平成29年度及び30年度に入学する学生が適用になります。

なお、平成31年度を計画初年度とする次期マスタープランについては、平成30年度に次期指定管理者の公募を迎えること等を考慮し、平成29年度中に策定することとし、内容については引き続き検討していきます。

◆マスタープランの推進（目安）

	平成28年	29年	30年	31年	32年	33年
計 画 期 間						
		2年延長		次期マスタープラン		
効果検証・見直し						
事業効果の調査						
(参考) 指定管理期間						
			公募			

II. 生涯大学校のあり方

1. 生涯大学校の存在意義と果たすべき役割

(1) “生きがい・健康・仲間づくり”を支援

【現状と課題】

長寿化に伴う健康寿命の延びや、価値観・ニーズの多様化に伴い、趣味や健康づくり、社会活動に生きがいを求める高齢者が増加傾向にあります。

社会活動を行うにあたっては、担い手となる高齢者自身がいつまでも健康で生き生きと暮らしていくことが大切であり、同時に、社会参加を通じて、自らの介護予防につながる効果も期待されています。

心身ともに健康で生きがいのある暮らしの基礎となる「健康づくり」の充実や、仲間とともに楽しみながら学ぶことは、地域活動への参加意欲を高め、健康の維持・増進という効果も期待できます。

【今後の方向性】

これらを踏まえ、特に生涯大学校の果たすべき役割としては、時代の変化や高齢者等の価値観の多様化や社会環境の変化に対応した「生きがい・健康・仲間づくり」の場と機会の提供、そして地域に開かれた地域の集いの場としての目標を明確に掲げ、学校運営を行っていくこととします。

(2) 地域活動の担い手の育成

【現状と課題】

団塊の世代が間もなく70歳を迎え、すでに地域で活躍されている方もいます。より多くの方が、会社や組織で長年培った多様な経験と知識を、地域活動に生かすことができれば、豊かな地域社会の実現に向けて大きな力となってくることは間違いありません。

現在、元気な高齢者等が支援の必要な高齢者を「支える側」として活躍することがより一層求められています。特に、都市部を中心として、高齢者のみの世帯（独居・夫婦）が増加しており、日常生活における「支え合い」はとて重要となっています。

また、地域の子どもたちを事故や犯罪から守り、子どもたちが安心して過ごせるよう、地域における子どもを見守りや居場所づくりが大変重要となっています。

こうした状況から、高齢者等の社会貢献が期待されています。

【今後の方向性】

そのため、生涯大学校では、高齢者等の多様な知識や経験、ノウハウ、技術などを地域づくりや地域経済の活性化に生かせるような学習の場と機会を提供し、引き続き、地域のために貢献できる人材（地域活動の担い手）の育成を目指していきます。

＜地域活動で期待される人材の例＞

活動概要	想定される人材
高齢者の日常生活支援	ふれあいサロンの運営や見守り活動など、地域に根ざし、在宅援護を必要とする高齢者に対する積極的な支援活動を行う人材
子どもの日常生活支援	子ども防犯ボランティアへの参加や防犯教室の開催、登下校時の見守り、ファミリーサポート会員、子ども食堂の開設・応援、放課後児童クラブでの補助など子どもに対する積極的な支援活動を行う人材
景観整備・樹木等の管理	公園や学校、市街地等の樹木の剪定や花壇の整備など、街の景観整備を行う技術を有し、率先して活躍できる人材
介護・福祉施設、老人ホーム等でのボランティア	介護・福祉施設や老人ホームにおいて、高齢者の話を聴いたり、歌などのレクリエーションを行ったり、また、車イスの清掃を行うなど、施設利用者への積極的な支援活動を行う人材
地域の歴史、文化等の伝承	市町村イベントや公民館などの場や機会をとらえ、子どもたち等に対して、地域の文化や伝統芸能、歴史などを伝え、地域文化の保存に努める人材
民生委員・児童委員や自治会役員	民生委員として、市町村の福祉事務所等と連携して地域福祉を推進し、あるいは自治会の役員として、自治会の活動を牽引するリーダー的な人材
地域の活性化等	地域独自の祭りや催事の企画、運営あるいは観光ボランティアガイド等を行い、地域の活性化を図るプロデューサーとして活躍できる人材

※ 現在、生涯大学校の在校生、卒業生は、上記のほか様々な分野で活躍しています。

(3) 市町村等と連携・役割分担した学習・活動の場の創出

【現状と課題】

生涯学習については、生涯大学校が発足した当時とは異なり、今では多くの市町村の公民館活動等において学習の場と機会が設けられています。また、それらを発展させ、市民大学のような形態で展開している市町村も複数みられます。

しかしながら、その実施状況を地域別に見ると、千葉地域や東葛飾地域を除いては、あまり充実していないのが現状です。

さらに、高齢者向け講座を開設している市町村の多くは、余暇の充実や健康づくりを目的とした講座を月1～2回の頻度で実施しているに留まっており、高齢者専用大学を設置してボランティア人材育成のためのカリキュラムを実施している市町村は少数です。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、生涯大学校では、「地域活動の担い手の育成」に重点を置き、高度で実践的な学習内容とすることで、市町村との役割分担を図ります。

あわせて、学んだことを地域で生かす場と機会の創出においては、市町村及び市町村社会福祉協議会と情報交換をする仕組みづくりを行うことで連携強化を図り、より効果的な学習・活動の場を提供していきます。

2. 地域における支援の対象となる高齢者

(1) 地域活動に興味のある高齢者

【現状と課題】

本県は高度成長期に人口が大幅に増加したため、団塊の世代の割合が高く、様々な知識と経験を有する人材が豊富であり、「地域活動の担い手の育成」という点では恵まれた地域といえます。

しかし、このような人たちが、地域活動等において知識や経験を生かしたいと思っても、情報不足やきっかけがつかめないなどの理由から、実現できずにいる人も多くみられます。

【今後の方向性】

生涯大学校では、このように貴重な人材が、容易に地域に溶け込み、知識と経験を十分に生かして活動するためのカリキュラムを整え、生きがいを持って健康で元気に活動できるよう支援していきます。

(2) 地域活動に意欲的な高齢者

【現状と課題】

「社会意識に関する世論調査」(平成27年度)によると、60～69歳の高齢者のうち、何か社会のために役に立ちたいと思っている人は、男性で69.4%、女性で67.8%と男女問わず7割近くに達しています。

社会貢献の内容を男女別にみると、男性では「町内会などの地域活動」が最も多く、続いて「自主防災活動・災害援助活動」が、また、女性では、「社会福祉に関する活動」が最も多く、続いて「町内会などの地域活動」の順となっています。

また、「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成25年)によると、社会貢献活動に参加して良かったこととして、「新しい友人ができた(48.8%)」、「生活に充実感ができた(46%)」、「健康や体力に自信がついた(44.4%)」など、高い効果があったことが伺えます。

しかしながら、地域で活動するために必要な情報やノウハウを得るために十分な学習環境が整っている市町村は少数であり、生涯大学校には、地域活動を行うために、より「実践的」な学習機会の提供が求められています。

【今後の方向性】

生涯大学校では、健康で元気に地域貢献できる人材を育成するため、広く地域課題をとらえ、介護予防や地域での支え合いの大切さや必要性などについて学び、課題解決のために具体的に活動を企画・実践できる学習の場を提供していきます。

これまで地域活動に参加した経験のない高齢者等に加えて、地域活動を既実践している高齢者等の学習の場としても機能させていきます。

また、地域の一員として地域活動に参加するだけでなく、地元自治会や老人クラブをはじめ、社会福祉協議会等とも連携し、地域の人々と協力しながら、より効果的で幅広い活動に発展させるリーダーの養成も視野に入れていきます。

(3) 仲間づくりをきっかけに地域活動を行う高齢者

【現状と課題】

生涯大学校に入学する高齢者等の中には、仲間づくりを目的としている方が数多くいます。また、入学生の約半数は地域活動未経験者です。

こうした方が、仲間づくりをきっかけに地域活動を行うことも重要と考えます。

【今後の方向性】

生涯大学校では、仲間とともに楽しんで行える演習や地域での実践活動を通して、在学中や卒業後に、よりスムーズに地域活動を行っていけるよう支援していきます。

また、地域活動の実施には、ともに活動する仲間が欠かせないことから、学部の枠を超えて、より多くの仲間と知り合えるように、クラブ活動への参加や、オープンキャンパスの実施、卒業生の組織化などについて推進していきます。

3. 学習テーマの3本柱

(1) 地域活動に役立つ知識と技能の習得

【現状と課題】

生涯大学校への入学時は、地域活動の経験がない人が約半数を占めていますが、卒業後は、多くの高齢者等が地域活動を実施しています。地域活動への参加について、生涯大学校の卒業生からは、「学校へ通い、学習していくうちに自然と地域活動への意欲が湧き、卒業後に活動を始めた」という声が多数聞かれます。

一方で、造形学部では、「1年間の学習（技術習得）では、自信を持って地域活動を実施できない。」等の声も聞かれます。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、引き続き、全ての学生が地域活動に役立つ学習となるよう、あわせてカリキュラムの充実を図ります。

また、地域活動に高いモチベーションを持つ学生が、卒業後すぐに活動を実践できるような知識や技能も習得できるようにします。

造形学部においては、今後必要に応じて、十分な学習時間の確保や、地域活動の体験をカリキュラムに組み込むなどの検討をすすめていきます。

(2) 地域活動を実践的に学ぶ体験学習

【現状と課題】

地域活動に興味を持つ学生の多くは、実際の活動の場で経験したいというニーズを持っています。

地域活動を実際に行っている方から体験談を聴いたり、地域活動を実際に経験することは、地域活動を身近に感じ、参加意欲を高めるだけでなく、自分でも地域活動ができるという自信につながります。

また、2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることになり、本県でも一部の競技が開催される予定であることから、ボランティア人材の育成が急務となっています。

【今後の方向性】

生涯大学校では、「地域活動の体験」を学習の柱に位置付け、市町村の生涯学習との役割分担を図ります。あわせて、地域での実践的な学習を多く取り入れることで、全ての学生がより多く地域活動を経験できるようにします。

また、健康づくりに資する講座を充実するとともに、郷土料理や地域の伝統技能、地域の歴史・文化など地域への理解を深める講座や、孤独死や少子化といった現代の身近な課題をテーマとした講座を設け、地域活動をより身近なものとなるようにします。

さらに、東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、外国の方とのコミュニケーション能力アップを目指した講座を設けます。

なお、地域活動のスキルやノウハウを習得するために、現在、地域で活動している方を講師に招くなどして、地域に適した活動となるよう学習内容を充実します。

(3) 仲間とともに活動するノウハウの習得

【現状と課題】

地域社会において、各種団体や組織に属して地域活動を行った経験のない(少ない)人たちには、うまく地域に溶け込めないことが少なくありません。

特に、企業という地域と離れた組織で長く働いていた人たちが、退職後に地域に入っていくには、意識改革が必要とされています。

こうしたことから、生涯大学校では、入学時から卒業時までグループ単位での活動を推進してきましたが、「交流が深められた」という声がある一方で、グループになじめなかった場合は退学につながるケースや、「グループ以外の人と話す機会がなかった」という声もよく聞かれます。

【今後の方向性】

今後は、演習や実習の活動単位となるグループについては、出身地域ごとに編成することを基本としつつ、交流を活発化するため、グループを定期的に再編成し、より多くの仲間との交流機会を設けます。

また、職歴等にかかわらず、地域活動の楽しさや仲間との活動の大切さなどの理解促進に努め、卒業後に自然と地域に溶け込めるように配慮します。

4. 学部・学科等の一部見直し

(1) 学部名の改称と地域活動専攻科の東葛飾学園への新設

- ◆ 地域活動学部を健康・生活学部へ改称し、京葉学園と東葛飾学園には目的別コースを設ける。
- ◆ 東葛飾学園に地域活動専攻科を設置する。

① 健康・生活学部

【現状と課題】

現マスタープランにより運営をはじめた平成25年度以降、入学者は年々減少しています。平成28年度には前年度比で138名増となりましたが、入学定員に対する充足率は72%（平成28年度）と、低い状況にあります。

とりわけ、地域活動学部における入学者の減少が顕著であり、これは、地域活動学部の名称が、「固い」、「抽象的で学習内容をイメージしづらい」、「ボランティアの押し付けである」というマイナスイメージを持たれてしまったことが一因と考えられます。

また、特に京葉学園や東葛飾学園では、地域活動に積極的に取り組みたいという意欲を持って入学してくる方と、生きがいや仲間づくりを目的に入学してくる方とで、学生層が二分化していること、また、それぞれの地域で実施したい地域活動の内容や意識、学習ニーズなどの違いも影響しているものと思われます。

【今後の方向性】

学部名を地域活動学部から健康・生活学部へ改称します。

また、学習ニーズや地域特性を踏まえ、特に、介護予防・日常生活支援総合事業の担い手の育成や、元気な高齢者が自らの健康を維持しながら、社会活動を行うことで自らの介護予防につなげる効果が期待できることから、京葉学園及び東葛飾学園においては、「健康福祉」と「社会生活」の2つのコースを設け、演習や実習を通して、それぞれの視点を重点的に学びます。

具体的には、「健康福祉」コースでは、認知症予防など介護予防の大切さや、日常生活の援助について学び、地域支え合いに活かします。

「社会生活」コースでは、環境や防災、災害時の共助などの地域課題を広くとらえ、課題解決の方法を探るとともに、自治会活動など社会生活を営んでいく上で基礎となる活動に活かします。

東総学園、外房学園、南房学園では、地域ニーズを踏まえ、「健康福祉」コースと「社会生活」コースの両方を兼ね備えた学習内容とします。

また、すべての学園において、2年次には、卒業後の活動が円滑に行えるよう、学生の希望に応じ、「保育」や「介護」、「災害」、「まちづくり」など施設等において分野別の実践活動を行い、学生同士及び様々な団体等とのネットワークを構築できるよう支援していきます。

② 造形学部

【現状と課題】

これまで造形学部においては、公共施設における花壇や里山の整備、親子陶芸教室を通じた世代間交流などが積極的に行われ、それぞれの技術を活かした地域活動の範囲が広がってきました。

しかしながら、園芸については、種植えから収穫（または樹木の剪定）など植物の成長サイクルが学習時期（年度単位）と異なることや、年によって異なる気象条件への対応が学べないということ、また、陶芸については、就労等で多忙な高齢者にとって、技術習得に必要な週2回の通学が負担ということなど、課題も生じています。

さらに、学生や講師陣から「地域活動を行うのに必要な技術を身に付けるには1年間の学びでは不十分」や「2年制にしてほしい」、「学んだ技術を地域活動にどう活かしてよいか分からない」といった意見が多数寄せられていることから、十分な学習時間の確保とともに、学びの中に地域での実践活動を設けることが求められています。

また、民間が行うカルチャーセンター等や学習支援業の81%が京葉学園地域と東葛飾学園地域に集中しており、依然として、民間の学習の場がない地域が多くあることから、県内全域に等しく学習の場があるとは言えない状況です。

市町村が提供する高齢者向けの学習機会も、都市部においては趣味や仲間づくりの講座が多数展開されている一方、その他の地域においては高齢者福祉施策関係の講座が中心となるなど、地域により内容が大きく異なっています。

《その他の教育、学習支援業の事業所数》

学園区域	京葉	東葛飾	東総	外房	南房	合計
事業所数	2,307	2,742	297	422	446	6,214
構成比	37.1%	44.1%	4.8%	6.8%	7.2%	100.0%

資料：平成26年経済センサス基礎調査（総務省）

さらに、生涯大学校へ通う学生の学習意欲は、生きがいの高揚と健康の維持増進に支えられています。陶芸や園芸は高齢者等に人気があり、応募倍率も高くなっています。学生にとってカリキュラム・講座に魅力がなければ、学習意欲の減退から学生数は減少し、ひいては地域活動の停滞にもつながりかねません。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、造形学部では、自らの能力を生かし、創造的に生きていくための学習機会を引き続き提供するとともに、地域活動に参加できる人材を養成します。

また、これまでの運営により生じた課題に対応するとともに、造形学部で培った技術を、実践活動を通して地域活動に活かすため、今後は、修業年数の見直しやそれに伴う定員の適正化、授業料の見直しを含めて、より慎重に検討していきます。

さらに、造形学部では、卒業後に健康・生活学部へ再入学することを認め、地域活動に対する関心と参加意欲の高い学生を受け入れるようにします。

③ 地域活動専攻科

【現状と課題】

市町村が生涯大学校に求める人材は、老人クラブ役員や、民生委員、介護予防・日常生活支援総合事業におけるサロン運営など、「地域活動のリーダーとなる人材の養成」が多くあり、自ら地域課題を発見し、その解決に向けた活動を実践できるリーダーを養成することが生涯大学校に強く求められます。

特に、東葛飾地域においては、地域活動専攻科での学習ニーズが高くなっていますが、現在設置されている京葉学園までの通学が困難などの理由から、進学をあきらめているケースが多く見受けられます。

【今後の方向性】

京葉学園（定員100名）のみに設置されていた「地域活動専攻科」について、新たに東葛飾学園にも設置することとし、定員は、それぞれ50名とします。

「地域活動専攻科」では、ボランティア活動や地域イベント、講演会等を企画・実践すること、また、起業やリーダーとして様々な活動を牽引するために必要な知識やノウハウを学習します。

リーダーとして活躍できる人材を養成するという観点から、地域活動専攻科への入学は、地域活動学部で2年間学習した卒業生又は市町村から推薦を受けた者に限定することとします。

(2) 定員の一部見直しと授業料について

《学園ごとの定員一覧表》

区分	学部及び専攻科	定員（一学年）	区分	学部及び専攻科	定員（一学年）
京葉学園	健康・生活学部	210名	京葉学園	地域活動学部	210名
	造形学部	285名		造形学部	285名
	地域活動専攻科	50名		地域活動専攻科	100名
東葛飾学園	健康・生活学部	200名	東葛飾学園	地域活動学部	200名
	造形学部	75名		造形学部	75名
	地域活動専攻科	50名			
東葛飾学園 浅間台教室	健康・生活学部	100名	東葛飾学園 浅間台教室	地域活動学部	100名
	造形学部	210名		造形学部	210名
東総学園	健康・生活学部	70名	東総学園	地域活動学部	70名
	造形学部	95名		造形学部	95名
外房学園	健康・生活学部	100名	外房学園	地域活動学部	100名
	造形学部	120名		造形学部	120名
南房学園	健康・生活学部	50名	南房学園	地域活動学部	50名
	造形学部	95名		造形学部	95名
1学年計		1,710名	1学年計		1,710名
全学年計		2,440名	全学年計		2,440名

【現状と課題】

現在の生涯大学校は、東葛飾学園や東総学園で定員を超える応募者数がある一方、京葉学園、外房学園、南房学園では定員割れとなっており、特に京葉学園では定員割れの状態が続いています。

これは、京葉学園の通学地域に、市町村が実施する市民大学等が充実していることも影響しているものと考えられます。

学科ごとでも応募倍率に大きな差が生じており、陶芸コースは人気が高く、地域活動学部は人気が低いという傾向にあります。

各学園の在籍数をみると、全般的に2年次（地域活動学部）において、充足率が落ちています。また、年度別の入学者数の推移では、改革以降の平成25年度をピークに毎年入学者が減っていましたが、地域活動学部の学習内容を一部見直した結果、平成28年度は、改革以降、はじめて増加に転じたところであり、学習要求を十分に汲んでいくことも大切であると考えます。

【今後の方向性】

入学者の確保とともに、退学者を減らし、学園全体の充足率を高めることが必要となっています。そのため、今回は、まず、実践的な学習内容の充実などを中心に見直しを行います。

また、今後は、次期マスタープランの検討を行う中で、「公の施設の見直し方針」を踏まえ、適正な定員など必要に応じた見直しのほか、これに合わせて授業料の見直し等についても検討していきます。

(3) 入学年齢について

- ◆ 入学可能年齢を現在の「55歳以上」から「原則として60歳以上」とする

【現状と課題】

現在の生涯大学校は、入学可能年齢を55歳以上としていますが、定年年齢の引き上げや定年後も非常勤で就労する高齢者等も多く、59歳以下の通学者は全入学者の5%弱にとどまっています。また、学生からも、55歳以上という若い年齢層を前面に出すことで、入学をためらってしまう高齢者がいるという意見も寄せられ、応募者減少の一因となっていると推察されます。

【今後の方向性】

入学可能年齢を「原則として60歳以上」に見直します。ただし、より多くの人材が早い段階から地域デビューのための準備をし、地域活動へ参加できるようにするという目的は引き続き継続するため、県が必要と認めた場合に、一定の条件のもと、55歳からの入学も可能とします。

5. 大学校の運営体制の強化

(1) 卒業生の組織化とコーディネーターの配置

- ◆ 各学園に卒業生団体の組織化の更なる促進
- ◆ 学生と卒業生の交流や卒業生の地域活動を支援するために配置しているコーディネーターの役割を強化

【現状と課題】

生涯大学校の卒業生組織としては、全学園を対象とした「千葉県生涯大学校卒業生学習会」（平成28年度会員数1,778名）をはじめ、平成28年4月現在で41団体の卒業生団体があり、その大半が地域活動を実施しています。中でも、東葛飾地域では、各市に福祉会が出来ており、それぞれの福祉会で連絡協議会を組織することで、地域活動に広がりが出ています。

これらの活動組織は、地域の清掃、花壇の手入れ、樹木の剪定などの施設管理の支援や自治体が主催する行事の応援、あるいは、小学生の登下校時の保護・誘導、高齢者の見守りなど、さまざまな形で地域活動を行っています。

また、本校卒業生等と地域団体が連携・協力をするためには、卒業生同士の交流や情報交換などが必要とされることから、これらのネットワークを強化する役割を持つコーディネーターを配置に力を入れてきました。

これにより、卒業生等からの相談件数、地域活動情報の収集、卒業生等と地域団体との連携・協力などについては、年々取り扱い件数が伸びています。

ただ、地域事情が異なることから、地域ごとの効果的な活動方法を確立することが課題となっている地域も存在します。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、全ての学園で、卒業生の組織化をさらに促進していくとともに、コーディネーターの役割（意義、育成、情報交換）を強化します。具体的には、市町村だけでなく、地域の自治会や地域で活動するNPOと協働して市町村ごとの実情にあった地域課題を把握するとともに、学生の体験学習先の開拓や、地域活動に有効な資格・研修会の情報を収集・提供することとします。

また、コーディネーターの活動を円滑に行うため、コーディネーターへの研修や情報交換の場を通して、コーディネーター相互の連携・協力体制を充実するとともに、社会福祉協議会ボランティアセンターのコーディネーターや地域で活動するNPO団体等とも連携し、長期的なネットワークの構築を目指していきます。

その際、必要であれば、卒業生情報を市町村や社会福祉協議会、NPO等の地域活動組織に提供することとします。

なお、卒業生に関する個人情報の提供は、本人の承諾を得て、厳格なルールの下で取り扱います。

(2) 市町村等との連携強化

- ◆ 市町村・地元自治会・社会福祉協議会との連携強化
- ◆ 卒業生情報等の共有による卒業生の活動の場の確保
- ◆ 地域特性を生かしたカリキュラムの作成

【現状と課題】

学んだことを地域で生かすためには、卒業後の居住地域における「活動の場や機会の提供、創造」が求められます。卒業生の多様な活動の場と機会を提供するためには、地域との連携が不可欠です。

しかしながら、市町村に対して行った調査では、「生涯大学校と連携したいが方法が分からない。」「卒業生を活用したいが、卒業生の情報がない。」等の意見が多くありました。また、卒業生の中には、地元市町村で精力的に地域活動に参加している者が数多くいるにもかかわらず、生涯大学校と市町村の間で情報交換が密に行われていないため、卒業生の活動が認知されていない状況があります。このことは、生涯大学校自体の認知度が向上しない要因の一つとなっています。

【今後の方向性】

これらの状況を改善するため、引き続き、各学園に設置する卒業生組織の事務局を通して、市町村のみならず、地域の実情を把握している地元自治会や社会福祉協議会ボランティアセンター等との連携の強化に積極的に努めるとともに、地域の特性を活かした講座の実施を通して地域とのつながりを強化していきます。

《連携の具体的な形》

- ① 県と生涯大学の各学園及び学園の管轄範囲の市町村等が広く連携し、情報共有が図れるよう、運営協議会を設置し、定期的に会合を開催していくこととします。
- ② 卒業生の組織を市町村ごとにグループ化し、各グループがそれぞれの地域で活動できるような仕組みを推進します。
- ③ 市町村ごとの課題や地域特性を勘案したカリキュラムを学園ごとに作成・展開し、卒業生が居住する地域での円滑な活動参加につなげます。
- ④ 卒業生で組織する団体では卒業生名簿と活動者名簿を作成し、必要に応じて市町村等に情報提供します（個人情報取扱ルールを遵守）。また、市町村等からボランティア活動などを必要とする施設や個人の希望などを集めて提供するなど、互いに情報交換することで連携を図っていきます。
- ⑤ 将来的には、各グループが主体的に自治体や公民館、社会福祉協議会などを訪問し、地域の実態やボランティア活動のニーズなどについて聞き取り調査を行うなどして積極的に地域活動へ参画していくことも展望しています。

(3) 大学等教育機関との連携

- ◆ 県内にある大学等の教育機関との連携強化
- ◆ 大学の公開講座の活用や講師派遣の依頼等による、講座やカリキュラムの質の向上

【現状と課題】

高齢者を取り巻く環境の変化により、高齢者自身の意識や行動、内容や範囲が多様化し、生涯大学校へ求めるニーズも多種多様となっています。これらのニーズに応えるためには、幅広い分野にわたる質の高いカリキュラムの提供が必要であり、講師の派遣などにおいても、県内大学等との連携が求められてきています。

自治体運営の高齢者等を対象とした生涯学習事業においては、地元の大学や放送大学との連携講座を設けているケースが多くみられます。連携の形も、地元で立地する大学から講師を招くことや、大学の公開講座への参加を生涯学習講座の単位（出席数）に含めている事例、大学の学生と生涯学習講座の学生が同じ研究テーマと一緒に活動を実践する事例など多様になっています。

【今後の方向性】

学生に質の高いカリキュラムを提供するため、今後は、連携する大学の特性や状況を踏まえた講師の派遣や、大学生等との世代間交流の実施、公開講座への参加など多様な連携方策を取り入れることとします。

また、少子化の影響で、高齢者向けの講座を開設している大学等も増加傾向にあることから、互いにメリットのある形での連携を進めます。

《連携の具体的な形》

- ① 県内には、千葉大学を始めとする国立大学や私立大学、放送大学など多数が立地しており、これらの大学を通じた多彩な講師の派遣を引き続き推進します。
- ② 大学の公開講座の活用など、学園外へ出向いた学習の場を設け、活動範囲を広げます。
- ③ テーマによっては大学生と生涯大学校の学生が同じ空間で学習したりボランティア活動をする機会を設けます。生涯大学校の学生だけでなく大学生にとっても、異世代交流による新鮮な経験が得られるというメリットがあります。

(4) 資格取得の支援

- ◆ 学生を資格取得に導く基礎的学習を実施
- ◆ 各種資格や検定等についての情報を収集・提供

【現状と課題】

これまで講座の中に、資格取得を可能にするため、日本赤十字社の救急法講習等をカリキュラムに組み込んだ結果、「地域活動をしていく上で自信につながった」等の意見が数多く寄せられました。

上記の救急法基礎講習だけでなく、生涯大学校の講座の中には、継続して学習を進めたり、連携する県内大学の公開講座を受講することで、公的な資格取得につながる可能性のあるものが多数あります。

地域で活動を行う上で強みになったり、学習の目標となるような検定や認定資格なども多く存在します。

【今後の方向性】

これらを踏まえ、引き続き、学生を資格取得へ導くため、資格に関する概要や導入部分をカリキュラムに取り入れた基礎的な学習を実施したり、連携大学の公開講座や市町村で実施する研修の情報を提供するなど、資格取得に対する意欲が高まるよう工夫・配慮します。

また、各種資格やご当地検定などについて、生涯大学校で情報を収集し、必要とする学生に提供していきます。これにより生涯大学校での学習を通じて、さらに幅広い学習意欲や地域活動意欲の醸成にもつなげていきます。

《具体的な資格・検定例》

資格・検定名	認位団体	概要
認知症サポーター	地域ケア政策ネットワーク 全国キャラバンメイト連絡協議会	認知症に関する知識を身に付け、地域の認知症高齢者等をサポートします。
赤十字救急法基礎講習修了者 (AED講習)	日本赤十字社 千葉県支部	手当の基本、人工呼吸・胸骨圧迫の方法、AED（自動体外式除細動器）の使用法、気道異物除去の方法などを学びます。
赤十字健康生活支援講習支援員		高齢者の介護の方法のほか、生活習慣病の予防、高齢期を迎える前からの健康管理の方法、地域での高齢者支援などを学びます。
赤十字幼児安全法支援員		子どもの成長と発達、起こりやすい事故の予防と手当、病気の看病のしかたについて学びます。

(5) 地域との交流の促進

- ◆ 地域の大学生等と共に行う授業や協働ボランティアの実施を通じた世代間交流の実現
- ◆ 地域イベントへの学園としての参画
- ◆ 公開講座や体験教室などの開催を通じた地域の集いの場としての役割

【現状と課題】

地域との交流については、オープンキャンパスの実施や地域イベント等への参画、地域の施設等での活動を通して、広がりが出てきました。

しかしながら、地域の方が気軽に生涯大学校に足を運んだり、日常的に学生と交流したりという点では、まだ充分とはいえず、生涯大学校の知名度も決して高いとは言えない状況があります。

【今後の方向性】

地域との交流を促進するため、地域の社会福祉施設等における、入所者に対するレクリエーションや車イス清掃、陶芸教室などの活動や、公園や公共施設等における花壇整備などの活動を継続して実施していくとともに、オープンキャンパスや体験教室の開催を通じて、引き続き、地域に根差した学校となるよう努めていきます。

また、地元自治会や老人クラブをはじめ、社会福祉協議会、農業協同組合、漁業協同組合、商工会議所等とも連携し、市民まつりやマラソン大会をはじめとした地域イベント等に学生がボランティアとして参加することを応援していくとともに、親子陶芸教室の開催や若い学生とともに行う海岸清掃などの取り組みを通じて、世代間交流を進めていきます。

さらに、これまでの活動に加え、学生が育てた花や野菜の即売会の開催や親子で気軽に参加できる地域の伝統技能や伝統料理の教室の開催などを通して、学生が学んだ内容を地域で活かす場とするとともに、子どもたちを含めた地域の方が気軽に集える場となるよう目指していきます。

(6) その他運営体制の強化

- ◆ 指定管理者制度の有効活用と施設の効率的活用
- ◆ 活動団体との連携強化
- ◆ 学生等の地域活動情報の発信や情報収集の強化
- ◆ 退学等の原因分析と有効な意見等はすぐに運営に反映する仕組みづくり
- ◆ 再入学制度の見直し

【現状と課題】

指定管理者には、施設の適正管理だけでなく、地域活動の担い手育成を目的とした魅力的な講座を企画・展開していくことや、学生募集にあたっての広報の充実、卒業生等の地域活動情報の発信など、生涯大学校の存在意義を周知し、運営を安定させるため、入学者の確保対策が求められます。

そのため、このようなソフト面においてノウハウを持った事業者による運営が期待されます。

また、入学者数の減少や退学率の増加の原因を究明するとともに、学生から定期的に意見を徴し、有効な意見はすぐに運営に反映する仕組みづくりが大切です。

さらに、再入学者が増加している現状がありますが、県の公の施設という観点から、より広く県民に利用していただく工夫が必要となっています。

【今後の方向性】

生涯大学校の運営に当たっては、県・生涯大学校の事務局や各学園・学生等との意見交換の場を設け、より効果的・効率的な運営を図ることができるようにします。

さらに、入学者確保対策として、中途入学制度の導入や、より多くの方に利用を広げるため、再入学制度の見直しを図ります。

施設を効果的・効率的に活用するという観点から、空き時間については、施設を地域に開放したり、指定管理者自ら自主講座を開設するなどして有効に活用することとします。

また、今後も卒業生の組織化を促進し、地域活動を進めていくため、それらの活動拠点として活用していくものとします。

卒業後、地域活動を行っていくためには、在学期間に、実際に活動している団体などと交流し、ネットワークを構築することが必要です。在学中にボランティア活動などの地域活動に触れ、地域活動団体との関係性を作り上げることを目指していきます。その中で、ネットワークづくりのノウハウを身に付けるだけでなく、地域活動への参加意欲を高めることができます。

卒業生の地域活動情報の発信やホームページ、SNSを利用した学校の様子の発信など、入学希望者に向け、広報の充実に力を入れていきます。

6. 次期マスタープランの策定に向けた検証・検討

◆ マスタープランの効果検証と必要な見直しの検討

【現状と課題】

一部改訂・延長版のマスタープランでは、これまでの運営で生じた課題を踏まえ、地域活動学部の学部名の改称や地域活動専攻科の東葛飾学園への設置、運営体制の強化等についての見直しを行います。

また、造形学部において、学んだ技術を地域活動に活かしていくためには、学習効果が最大限に得られるよう、地域での実践活動をカリキュラムに組み込むとともに、修業年数や定員の見直しを図っていく必要があります。

これらの見直しを含め、マスタープランに沿って運営が着実に進められているかどうかについて、進捗状況を確認してその効果を検証し、効果的・効率的な運営を図るとともに、高齢者を取り巻く環境の変化や地域の状況を踏まえた見直しを進めていくことが重要です。

【今後の方向性】

このため、今後は平成28年7月に決定された「公の施設の見直し方針」を踏まえながら、県の果たすべき役割や積極的な地域活動の促進、卒業生の地域活動状況、民間の生涯学習事業の展開状況、市町村の人材育成状況などの観点から検証を行い、社会福祉審議会等の意見も伺いながら、造形学部の修業年数の見直しやそれに伴う定員の適正化などの検討を進めていくこととします。

《参考：各学部の学習内容（案）》

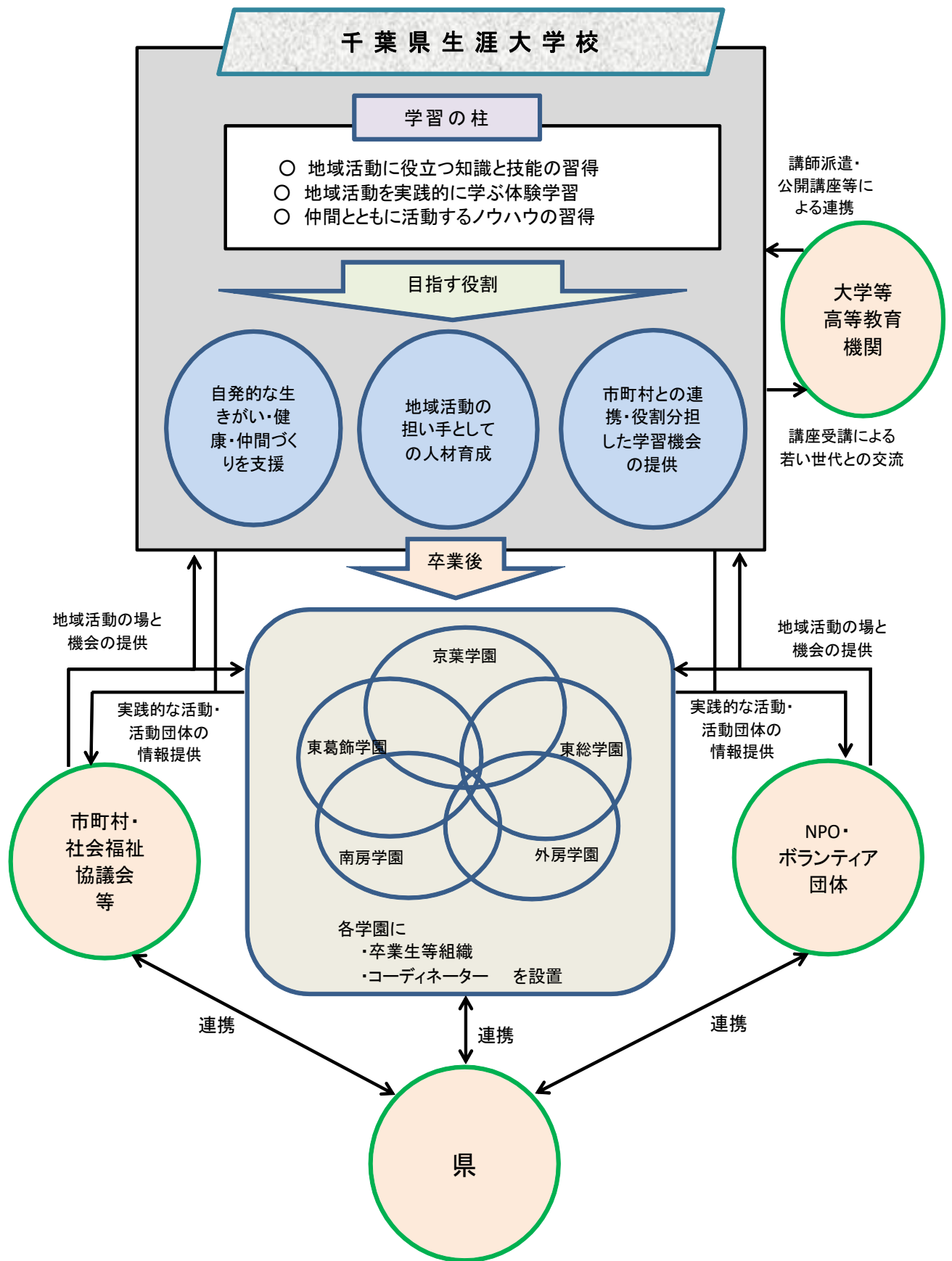
学部 コース	目的・備考	修業年限	学園	主な学習内容
健康・生活 学部	健康維持の大切さや地域での助け合い等に関する知識や技術について学び、ボランティア活動など社会参加に役立てます。	週1回 2年間	京葉 東葛飾	<p>《健康づくり》 ※全員 認知症予防のための食生活・健康づくりの基礎知識、グランドゴルフなどスポーツ実習</p> <p>《社会参加に役立つ学習》 (両コース共通)調理、地域の伝統技能・歴史、外国人とのコミュニケーション能力向上、パソコン実習 少子化・孤立死など現代の課題をテーマとした学習、施設等への見学・体験 (健康福祉コース)傾聴、手話、視覚障害者ガイドヘルプ、介護・保育に関する演習 (社会生活コース)安心・安全なまちづくり、NPO・社協・自治会の活動、災害ボランティア演習</p> <p>《資格取得につながる講座》 健康生活支援講習・救急法基礎講習による知識・技術の習得／認知症サポーター 学童保育支援員／介護サポーター など</p> <p>※その他、教養科目があります。</p>
			東総 外房 南房	<p>《健康づくり》 ※全員 認知症予防のための食生活・健康づくりの基礎知識、グランドゴルフなどスポーツ実習</p> <p>《社会参加に役立つ学習》 傾聴、手話、視覚障害者ガイドヘルプ、介護・保育の演習、施設等への見学・体験、パソコン実習 安心・安全なまちづくり、NPO・社協・自治会の活動、災害ボランティア演習、調理、地域の伝統技能・歴史 外国人とのコミュニケーション能力向上、少子化・孤立死など現代の課題をテーマとした学習</p> <p>《資格取得につながる講座》 健康生活支援講習・救急法基礎講習による知識・技術の習得／認知症サポーター、学童保育支援員 介護サポーター など</p> <p>※その他、教養科目があります。</p>

コース等	目的・備考	修業年限	主な学習内容
造形学部 園芸 コース	園芸の知識や技術を習得し、学習成果を地域活動に活かします。	週1回 1年間	<p>《園芸に関する基礎的な知識・技術の習得》 植物・土壌・肥料・病害虫の基礎、草花・野菜・果樹・盆栽・山野草の栽培管理</p> <p>《園芸に関する実習》 花・野菜・庭木・盆栽等の種蒔・植え替え・整枝剪定等</p> <p>※その他、健康・生活学部に基づき、健康づくりや地域活動に関する講座などがあります。</p>

コース等	目的・備考	修業年限	主な学習内容
造形学部 陶芸 コース	陶芸の知識や技術を習得し、学習成果を地域活動に活かします。	週2回 1年間	<p>《陶芸に関する基礎的な知識・技術の習得》 陶磁器の歴史・種類・原料、粘土の扱い方、釉薬の組成と種類等、楽茶碗の制作、ひもづみによる花器・口クロによる鉢の成型等</p> <p>《陶芸に関する実習》 土練、成形、素焼き・絵付け・釉がけ・窯詰め・焼成等</p> <p>※その他、健康・生活学部に基づき、健康づくりや地域活動に関する講座などがあります。</p>

コース等	目的・備考	修業年限	学園	主な学習内容
地域活動 専攻科	ボランティア活動や地域イベント等の企画・立案や、地域のリーダーとして様々な活動を牽引するため知識やノウハウの習得を目指します。	週1回 1年間	京葉 東葛飾	<p>芸術療法入門などの教養科目のほか、地域リーダー養成に資する講座、団体の設立方法、起業に役立つ「ソーシャルビジネス」などについて学びます。</p> <p>※地域活動学部の卒業生が対象となります。 ※その他、健康づくりに関する講座などがあります。</p>

《参考：千葉県生涯大学校 イメージ図》



資 料

I. 生涯大学校について

1. 生涯大学校の概要……………29
2. 学園の配置……………30
3. 入学者数の推移（平成 25 年度～平成 28 年度） ……31
4. 在学者数の推移（平成 26 年度～平成 28 年度） ……32
5. 卒業生団体の一覧……………33

II. 千葉県の高齢化の現状（抜粋）

1. 千葉県の高齢化の状況……………34
2. 千葉県の高齢化の推移と将来推計……………34
3. 千葉県の平均寿命と健康寿命……………35

I 生涯大学校について

1. 生涯大学校の概要

(1) 根拠規程

- ①千葉県生涯大学校設置管理条例
- ②千葉県生涯大学校管理規則

(2) 設置の趣旨

高齢者が新しい知識を身につけ、広く仲間づくりを図るとともに、学習の成果を地域活動に役立てるなど社会参加による生きがいの高揚に資すること及び地域活動の担い手となることを促進すること。

(3) 体制及び管理運営について

- ①昭和50年4月開校。総長は千葉県知事。
- ②千葉県生涯大学校マスタープランに基づき指定管理者が運営。

(4) 学部、定員及び修業年限、授業料

- ①地域活動学部（H29年度より健康・生活学部）
《定員／修業年限》 730名／2年間（週1回）
《授業料》 年額15,400円

- ②造形学部園芸コース
《定員／修業年限》 630名／1年間（週1回）
《授業料》 年額27,700円

- ③造形学部陶芸コース
《定員／修業年限》 250名／1年間（週2回）
《授業料》 年額55,500円

- ④地域活動専攻科
《定員／修業年限》 100名／1年間（週1回）
《授業料》 年額15,400円

※地域活動専攻科は、地域活動学部の卒業生のみ入学可。

(5) 入学可能年齢

55歳以上（平成29年度より、原則として60歳以上）

(6) 入学者数の男女別内訳と平均年齢（平成28年度入学生の場合）

- ①男女別内訳 男性 52.9%、女性 47.1%
- ②平均年齢 67.5歳（最高齢 88歳）

2. 学園の配置について

京葉学園（千葉市中央区）、東葛飾学園（流山市、松戸市）、東総学園（銚子市、神崎町）、外房学園（茂原市、勝浦市）、南房学園（館山市、木更津市）の5学園11教室で運営している。



3. 入学者数の推移（平成25年度～28年度）

各年度4/1現在(人、%)

学園	学部	定員	平成28年度		平成27年度		平成26年度		平成25年度		
			入学者数	定員充足率	入学者数	定員充足率	入学者数	定員充足率	入学者数	定員充足率	
京葉学園	地域活動学部	210	79	37.6%	56	26.7%	103	49.0%	146	69.5%	
	造形学部	園芸コース	210	150	71.4%	136	64.8%	151	71.9%	135	64.3%
		陶芸コース	75	63	84.0%	53	70.7%	67	89.3%	69	92.0%
	計	495	292	59.0%	245	49.5%	321	64.8%	350	70.7%	
東葛飾学園	地域活動学部	200	149	74.5%	121	60.5%	170	85.0%	203	101.5%	
	造形学部	75	75	100.0%	68	90.7%	63	84.0%	72	96.0%	
	計	275	224	81.5%	189	68.7%	233	84.7%	275	100.0%	
東葛飾学園 (浅間台教室)	地域活動学部	100	77	77.0%	45	45.0%	87	87.0%	97	97.0%	
	造形学部	210	195	92.9%	185	88.1%	200	95.2%	189	90.0%	
	計	310	272	87.7%	230	74.2%	287	92.6%	286	92.3%	
東総学園	地域活動学部	70	65	92.9%	43	61.4%	56	80.0%	56	80.0%	
	造形学部	園芸コース	70	69	98.6%	62	88.6%	69	98.6%	74	105.7%
		陶芸コース	25	26	104.0%	27	108.0%	21	84.0%	24	96.0%
	計	165	160	97.0%	132	80.0%	146	88.5%	154	93.3%	
外房学園	地域活動学部	100	72	72.0%	64	64.0%	62	62.0%	67	67.0%	
	造形学部	園芸コース	70	39	55.7%	64	91.4%	69	98.6%	64	91.4%
		陶芸コース	50	44	88.0%	40	80.0%	33	66.0%	26	52.0%
	計	220	155	70.5%	168	76.4%	164	74.5%	157	71.4%	
南房学園	地域活動学部	50	29	58.0%	28	56.0%	27	54.0%	40	80.0%	
	造形学部	園芸コース	70	57	81.4%	57	81.4%	55	78.6%	64	91.4%
		陶芸コース	25	25	100.0%	26	104.0%	22	88.0%	28	112.0%
	計	145	111	76.6%	111	76.6%	104	71.7%	132	91.0%	
地域活動学部・造形学部 計		1,610	1,214	75.4%	1,075	66.8%	1,255	78.0%	1,354	84.1%	
地域活動専攻科		100	25	25.0%	26	26.0%	53	53.0%	104	104.0%	
合計		1,710	1,239	72.5%	1,101	64.4%	1,308	76.5%	1,458	85.3%	

4. 在学者数の推移（平成26年度～28年度）

各年度4/1現在(人、%)

学園	学部	学年	定員	平成28年度		平成27年度		平成26年度		
				学生数	定員充足率	学生数	定員充足率	学生数	定員充足率	
京葉学園	地域活動学部	1	210	79	37.6%	56	26.7%	103	49.0%	
		2	210	44	21.0%	70	33.3%	110	52.4%	
	造形部	園芸コース	1	210	150	71.4%	136	64.8%	151	71.9%
		陶芸コース	1	75	63	84.0%	53	70.7%	67	89.3%
	計		705	336	47.7%	315	44.7%	431	61.1%	
東葛飾学園	地域活動学部	1	200	149	74.5%	121	60.5%	170	85.0%	
		2	200	99	49.5%	135	67.5%	161	80.5%	
	造形部	陶芸コース	1	75	75	100.0%	68	90.7%	63	84.0%
	計		475	323	68.0%	324	68.2%	394	82.9%	
東葛飾学園 (浅間台教室)	地域活動学部	1	100	77	77.0%	45	45.0%	87	87.0%	
		2	100	37	37.0%	73	73.0%	89	89.0%	
	造形部	園芸コース	1	210	195	92.9%	185	88.1%	200	95.2%
	計		410	309	75.4%	303	73.9%	376	91.7%	
東総学園	地域活動学部	1	70	65	92.9%	43	61.4%	56	80.0%	
		2	70	31	44.3%	46	65.7%	50	71.4%	
	造形部	園芸コース	1	70	69	98.6%	62	88.6%	69	98.6%
		陶芸コース	1	25	26	104.0%	27	108.0%	21	84.0%
	計		235	191	81.3%	178	75.7%	196	83.4%	
外房学園	地域活動学部	1	100	72	72.0%	64	64.0%	62	62.0%	
		2	100	57	57.0%	59	59.0%	57	57.0%	
	造形部	園芸コース	1	70	39	55.7%	64	91.4%	69	98.6%
		陶芸コース	1	50	44	88.0%	40	80.0%	33	66.0%
計		320	212	66.3%	227	70.9%	221	69.1%		
南房学園	地域活動学部	1	50	29	58.0%	28	56.0%	27	54.0%	
		2	50	18	36.0%	25	50.0%	33	66.0%	
	造形部	園芸コース	1	70	57	81.4%	57	81.4%	55	78.6%
		陶芸コース	1	25	25	100.0%	26	104.0%	22	88.0%
計		195	129	66.2%	136	69.7%	137	70.3%		
地域活動学部・造形学部 計			2,340	1,500	64.1%	1,483	63.4%	1,755	75.0%	
地域活動専攻科			100	25	25.0%	26	26.0%	53	53.0%	
合 計			2,440	1,525	62.5%	1,509	61.8%	1,808	74.1%	

5. 卒業生団体の一覧

(平成28年4月現在)

学園	団体名	設立年月
全学園	千葉県生涯大学校卒業生学習会	昭和63年4月
京葉学園	千葉県生涯大学校四街道学友会	昭和59年11月
	千葉県生涯大学校佐倉印旛地区同窓会	平成4年11月
	NPO法人車椅子レクダンス普及会千葉中央支部	平成14年4月
	市原市卒業生の会	平成25年12月
	千葉県生涯大学校地域活動専攻科校友会	平成26年4月
	千葉県生涯大学校八千代の会	平成28年2月
東葛飾学園	流山校友会	昭和52年11月
	柏校友会	昭和56年6月
	柏南校友会	平成14年3月
	野田校友会	平成元年4月
	我孫子校友会	平成16年11月
	鎌ヶ谷校友会	平成13年7月
	銀松会(松戸)	平成元年11月
	柏シルバー大学院	昭和56年5月
	東葛市川福祉会	平成9年2月
	東葛柏福祉会	平成9年2月
	東葛鎌ヶ谷福祉会	平成9年2月
	東葛流山福祉会	平成9年2月
	東葛野田福祉会	平成15年4月
	東葛船橋福祉会	平成9年2月
	東葛飾福祉会(松戸市)	平成9年2月
もみじの会(流山市)	平成18年8月	
東総学園	八匠学友会	昭和52年12月
	東庄町校友会	昭和57年5月
	あさひ学友会	平成6年10月
	神崎町校友会	昭和57年5月
	海上学友会	平成9年10月
東総学園	銚子学友会	平成26年5月
	かとり学友会	平成24年6月
	日本修道流吟詠会東総支部	昭和52年12月
外房学園	大網白里地区学友会	昭和56年1月
	岬町OB会	平成14年4月
	一笑の会	平成21年5月
	つくも学友会	平成24年5月
南房学園	南房同友会	平成20年4月
	ふくの会ふくの家	平成21年6月
	生大OBひまわりの会	平成13年8月
	碧空会	平成14年2月
	南房学園同窓会	平成57年6月
	南房33期OB会	平成24年

II 千葉県の高齢化の現状

1. 千葉県の高齢化の状況

全国第2位のスピードで高齢化が進行

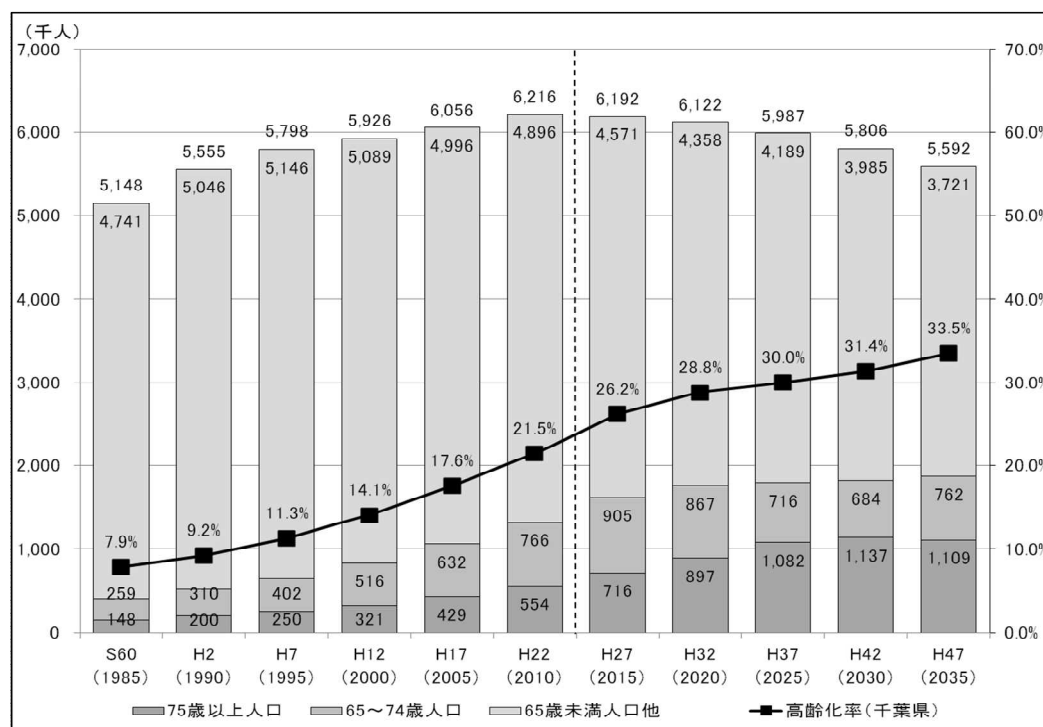
年	高齢化率	65歳以上人口	総人口
平成17年	17.6%	1,060,343人	6,056,462人
平成22年 (前回比)	21.5% (3.9ポイント上昇)	1,320,120人 (259,777人の増)	6,216,289人 (159,827人の増)
平成27年 (前回比)	25.9% (4.4ポイント上昇)	1,584,419人 (264,299人の増)	6,222,666人 (6,377人の増)
10年間の比較	<u>8.3ポイント上昇</u>	<u>524,076人の増</u>	<u>166,204人の増</u>

※総務省統計局「国勢調査結果」(10月1日現在)より

2. 千葉県の高齢化の推移と将来推計

今後、本県の人口は緩やかな減少を続ける一方、高齢者人口は増加を続け、高齢化率は、平成37年(2025年)には30.0%、平成47年(2035年)には33.5%と、3人に1人が65歳以上となることが見込まれており、特に、75歳以上人口の増加が顕著である。

《千葉県の人口の推移及び将来推計》

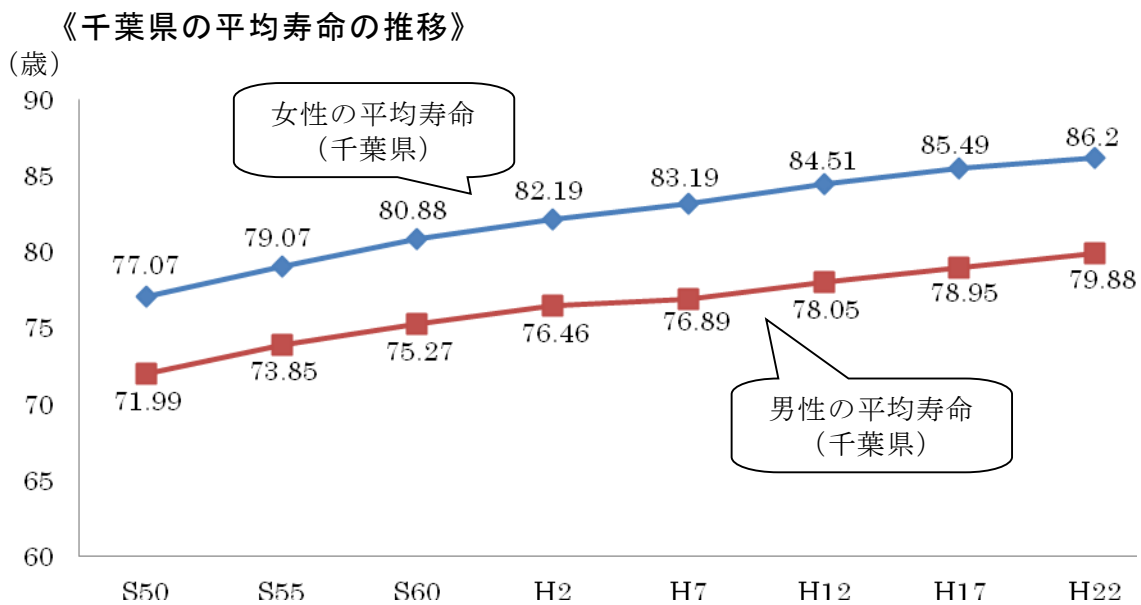


※平成22年(2010年)以前は総務省統計局「国勢調査結果」による実績値。平成27年(2015年)～平成47年(2035年)は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」による推計値。高齢化率は、年齢不詳を除く総人口に占める割合

3. 千葉県の平均寿命と健康寿命

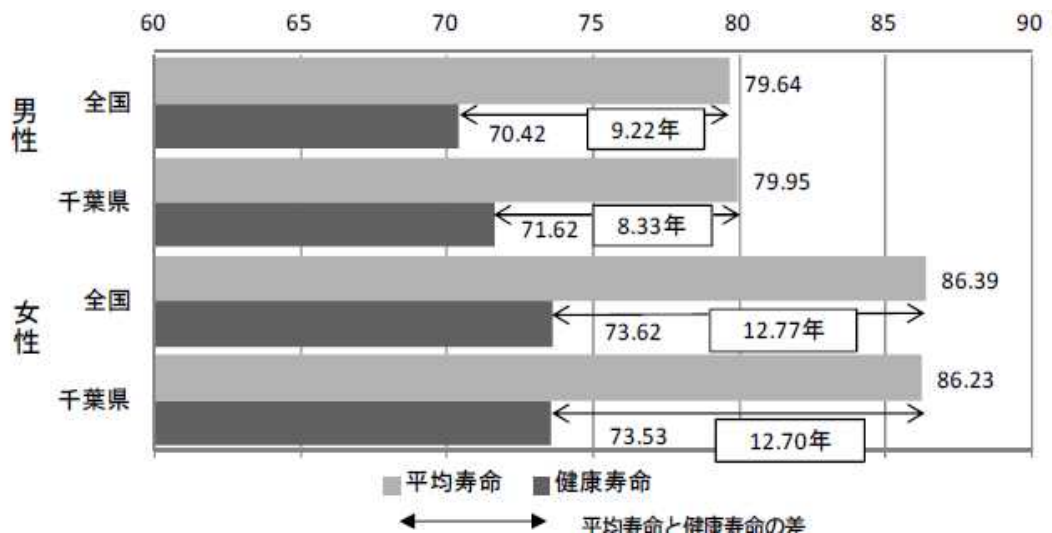
本県の平均寿命は、平成 22 年(2010 年)では男性が 79.88 歳、女性が 86.20 歳と、それぞれ全国 13 位、34 位となっている。

また、本県の平成 22 年(2010 年)の健康寿命(健康で支障なく日常生活を送れる期間)は男性 71.62 歳、女性 73.53 歳で、特に男性は平均寿命、健康寿命ともに全国上位となっているが、平均寿命と健康寿命との間には、男女それぞれ約 8 年、12 年の差がある。



(厚生労働省「平成 22 年都道府県生命表」)

《全国と千葉県の平均寿命の差》



※厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用に関する研究」(H22)より。なお、出典が異なるため、図「千葉県の平均寿命の推移」の平均寿命と一致しない。